

2011年12月期

決算説明会

2012年2月22日

SBSホールディングス株式会社

www.sbs-group.co.jp

も く じ

- **2011年度決算及び
2012年度計画について**
- **2012年度グループ経営について**

2011年度決算及び 2012年度計画について

SBSホールディングス株式会社
常務取締役 入山 賢一

11年12月期 連結業績 / 前期比較



(単位:百万円)

	10年12月期		11年12月期			
	実績値	構成比	実績値	構成比	増減率	増減額
売上高	119,824	100%	121,148	100%	1.1%	1,324
営業利益	4,262	3.6%	2,177	1.8%	△48.9%	△2,085
経常利益	4,291	3.6%	1,653	1.4%	△61.5%	△2,637
当期純利益	2,140	1.8%	2,522	2.1%	17.8%	381

税効果会計等による純利益増

■ 連結納税移行

- ・TLなど19社が連結納税移行
- ・これにより繰延税金資産が増加

(単位:百万円)

	10年12月期	11年12月期	増減額
税前当期純利益	3,968	1,286	△2,682
法人税等	1,511	709	△801
法人税等調整額	246	△1,951	△2,197
少数株主利益	70	5	△65
当期純利益	2,140	2,522	381

■ 法人税率変更

- ・40.69%→38.01%に引き下げ
- ・これにより繰延税金負債が減少

11年12月期 連結業績 / 計画比較



(単位:百万円)

	11年12月期					
	計画値	構成比	実績値	構成比	増減率	増減額
売上高	120,000	100%	121,148	100%	1.0%	1,148
営業利益	2,700	2.3%	2,177	1.8%	△19.4%	△523
経常利益	2,200	1.8%	1,653	1.4%	△24.9%	△547
当期純利益	1,300	1.1%	2,522	2.1%	94.0%	1,222

※計画値は、2011年8月9日に修正したものです。

セグメント別業績 / 前期比較

■ 2011年12月期実績

(単位:百万円)

	物 流	不動産	その他	消去等	合 計
売上高	112,698	2,392	6,057	—	121,148
増減率	5.6%	△60.7%	△14.1%	—	1.1%
営業利益	1,265	1,101	△211	23	2,177
増減率	△28.1%	△51.3%	—	—	△48.9%
営業利益率	1.1%	46.0%	△3.5%	—	1.8%

参考:2010年12月期実績

(単位:百万円)

	物 流	不動産	その他	消去等	合 計
売上高	106,684	6,084	7,054	—	119,824
増減率	—	—	—	—	3.6%
営業利益	1,761	2,262	141	△19	4,262
増減率	—	—	—	—	47.6%
営業利益率	1.7%	37.2%	2.0%	—	3.6%

※当頁の売上高は連結消去後の金額で表示しています。

連結貸借対照表の推移

2010年12月末

単位:億円

2011年12月末



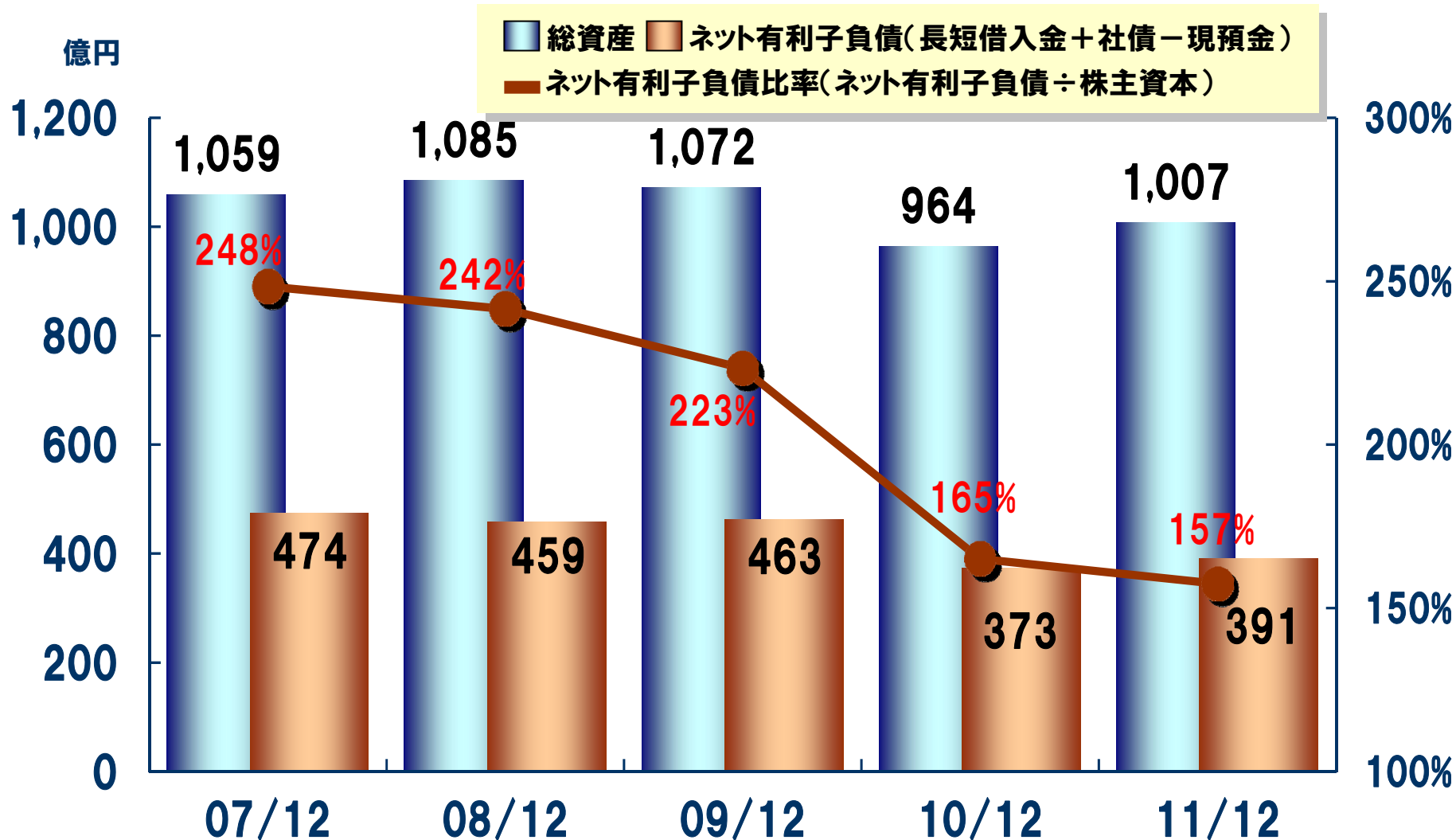
総資産 964

自己資本比率 23.2%

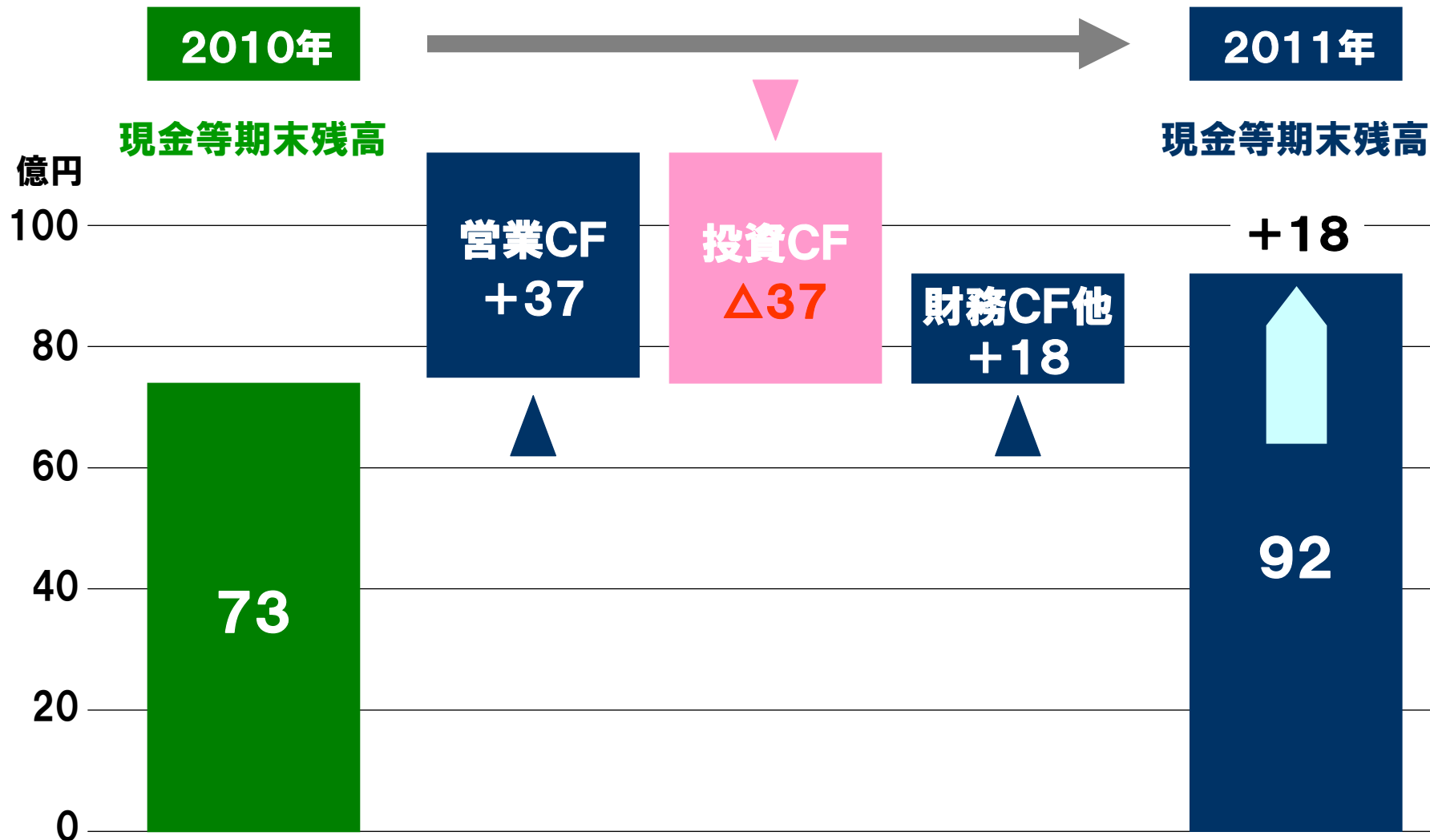
総資産 1,007

自己資本比率 24.5%

■有利子負債比率の低減に取り組む



連結キャッシュ・フローの概要



12年12月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	11年12月期		12年12月期		
	実績値	構成比	予想値	構成比	増減率
売上高	121,148	100%	127,000	100%	4.8%
営業利益	2,177	1.8%	2,900	2.3%	33.2%
経常利益	1,653	1.4%	2,400	1.9%	45.2%
当期純利益	2,522	2.1%	1,800	1.4%	△28.6%

12年12月期 業績予想/セグメント

(単位:百万円)

	物 流	不動産	その他	消去等	合 計
売上高	117,700	2,300	7,000	—	127,000
増減率	4.4%	△3.8%	15.6%	—	4.8%
営業利益	1,776	1,060	70	△6	2,900
増減率	40.4%	△3.7%	—	—	33.2%
営業利益率	1.5%	46.1%	1.0%	—	2.3%

参考:2011年12月期実績

(単位:百万円)

	物 流	不動産	その他	消去等	合 計
売上高	112,698	2,392	6,057	—	121,148
増減率	5.6%	△60.7%	△14.1%	—	1.1%
営業利益	1,265	1,101	△211	23	2,177
増減率	△28.1%	△51.3%	—	—	△48.9%
営業利益率	1.1%	46.0%	△3.5%	—	1.8%

※当頁の売上高は連結消去後の金額で表示しています。

2012年度 グループ経営について

SBSホールディングス株式会社
代表取締役 鎌田 正彦

3年間の業績動向と計画

■売上は順調拡大、利益は震災を越えて再成長へ



業界トップ10入りをめざす

“全方位の物流機能を持つ3PL企業集団”

3つの戦略

3PL拡大と
安定基盤(食品)確保

事業戦略

海外展開を本格化
アジアを主ターゲットに

海外戦略

M&A活用と
物流施設開発

投資戦略

グループ経営基盤整備

ローコストオペレーション体制～シナジーが発揮できる環境づくり

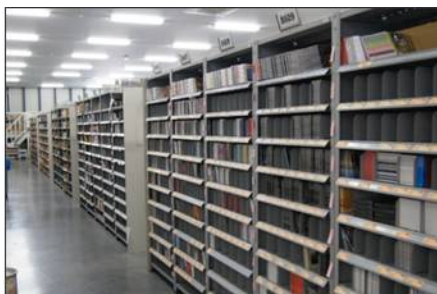
事業戦略 3PL事業の拡大

(単位:億円)

3PL事業	2010年度	2011年度	2012年度 計画
売上高 増減率	354 10.5%	401 13.3%	425 6.0%



地域スーパー
3月 大分・宮崎・熊本



音楽産業・レンタルショップ
4月 全国配送



乳飲料メーカー
4月 大分～九州全域



大手ドラッグストア
5月 高松～四国全域



大手医薬品メーカー
8月 大阪～西日本



地域スーパー
9月 札幌～小樽

■ 資金確保と財務健全性のバランスを意識した投資

■ M & Aへ資金を投入

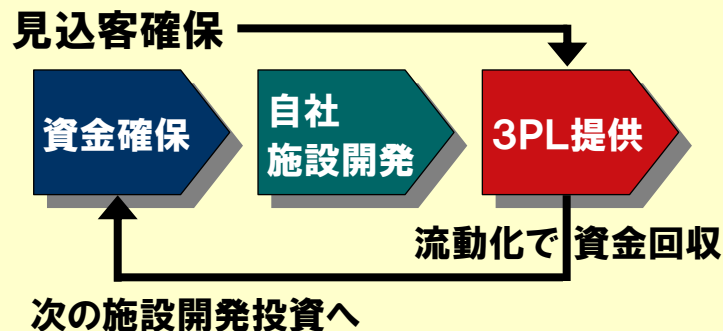
<M & Aの厳選>

既存事業とのシナジー効果
規模と収益性への貢献評価

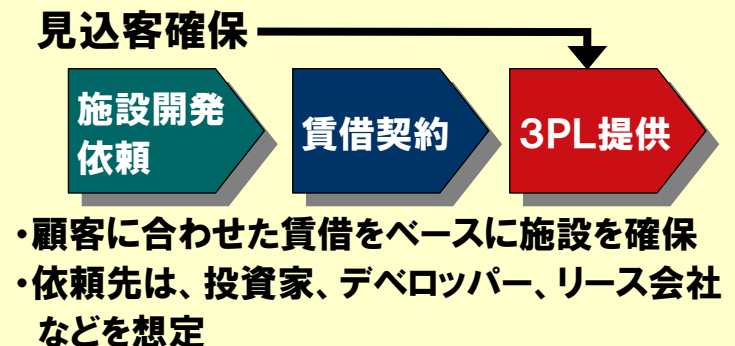
- 3PL事業の拡大
- 優良顧客の獲得
- 食品物流分野の強化
- 海外展開パートナーの確保

■ 施設開発はノン・アセット型で

<従来の方法>



<今後取り組む方法>



投資戦略 M & A実績

(株)JVCケンウッド子会社 日本レコードセンター(株)



本 社	神奈川県厚木市
資 本 金	450百万円
持分比率	100%(ティーエルロジコム)
売 上 高	39億円(2011年3月期)
従 業 員	856名(2011年3月末)
事業内容	音楽・映像媒体物流
主要顧客	ビクターエンタテインメント

インドの国際物流会社 Atlas Logistics Pvt. Ltd.



本 社	インド・バンガロール
資 本 金	91百万円
持分比率	80%(SBSホールディングス)
売 上 高	31億円(2011年3月期)
従 業 員	約500名(2011年3月末)
事業内容	フォワーディング他
主要顧客	Bosch、Tata Group、コマツ

※金額は、1円:1.5ルピーで換算

稼働中案件

開発名称	土地(坪) 建物(坪)	竣工日	投資残高	稼働状況		B/S 計上科目	保有会社
				賃貸中	酒造メーカー		
京田辺(京都)	7,920 11,369	07年4月	35億円	賃貸中	酒造メーカー	たな卸資産 不動産信託受益権	エーマックス (SPC 新橋キャピタル)
合計	7,920 11,369		35億円				

注)投資残高は、土地・建物の簿価に減価償却を反映したものである。

開発待ち案件

①長津田は近日着工予定、③野田は建設中

開発名称	土地(坪)	取得日	投資残高	立地環境		B/S 計上科目	保有会社
①長津田(横浜)	18,809	06年6月	41億円	横浜インター至近	近日着工予定	たな卸資産 販売用不動産	エルマックス
②芝山(千葉)	33,954	07年6月	3億円	成田空港近く	開発交渉中	固定資産	SBSホールディングス
③野田(千葉)	5,100	06年12月	14億円	国道16号線沿い	建設中	固定資産	ティーエルロジコム
④幸浦(横浜)	4,776	06年3月	22億円	金沢工業団地隣接	売却交渉中	固定資産	ティーエルロジコム
合計	62,639		80億円				

注)投資残高は、土地の取得簿価を掲載。建設中のものは建設仮勘定も含まれている。

- 特定荷主向け物流センターの開発
- 東名横浜町田インター5分
- 当年度上期・着工、再来年度春・竣工予定



名称	横浜長津田物流センター(仮称)	所在地	神奈川県横浜市
敷地面積	約62,000m ² (18,800坪)	延床面積	約45,000m ² (13,700坪)
構造	地上2階、地下1階	竣工	2014年春(予定)

- ティーエルロジコムの新しい3PL事業拠点
- 隣接する野田物流センターを補完
- 新規3PL顧客の獲得



名称	野田吉春物流センター(仮称)	所在	千葉県野田市
敷地面積	約17,000㎡(5,200坪)	延床面積	約31,600㎡(9,600坪)
構造	地上4階	竣工	2012年9月末(予定)

■アジアで成長する企業グループへ



●対国内企業

- ・荷主の海外展開に対応できる体制
- ・国際物流体制の再編

●対インド、ASEAN

- ・インド国内市場への進出
- ・ASEAN、アトラス社を軸に推進

●対中国

- ・パートナーの発掘
- ・提携やM&Aを視野

■荷主の海外展開に対応

**国際物流業務
の集約**

**VLロジネットの国際物流事業をティー
エルロジコムに集約(合併)**

通関業務の集約

**SBSグループの通関業務をティーエル
グループ(ACシステム)に集約**

**アトラスとの
連携強化**

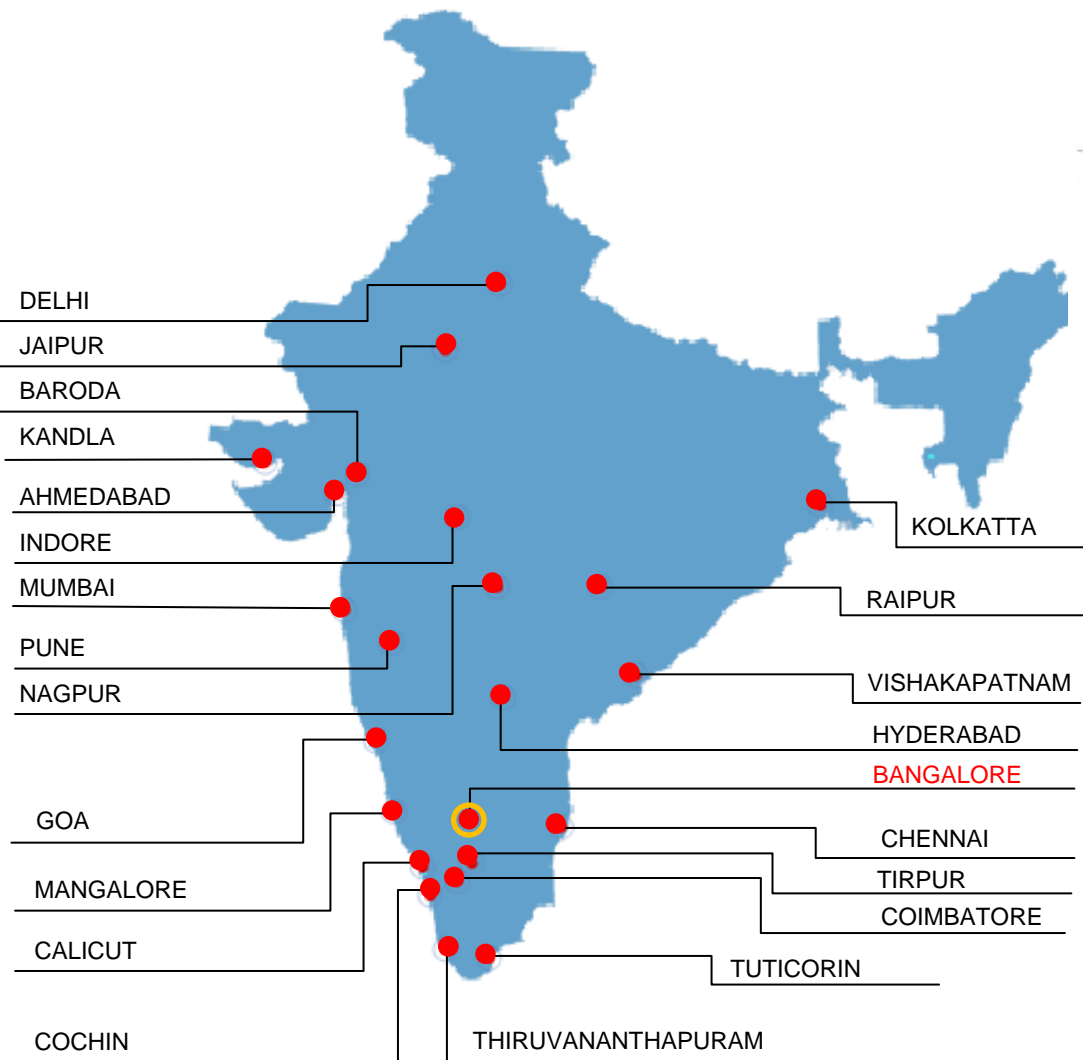
**ACシステム大阪営業所内にアトラス
ジャパンが移転し、協働開始予定**

**ACシステムの
フォワーダー進出**

**国際貨運代理業免許を取得し、上期
にもフォワーダー業務を開始予定**

■インド国内ネットワーク

■グローバルネットワーク



No	Overseas Offices
1	HONG KONG
2	SINGAPORE
3	KOREA Seoul
4	SRI LANKA Colombo
5	INDONESIA Bekasi
6	THAILAND Bangkok
7	MALAYSIA Selangor Darul Ehasan
8	VIETNAM Ho Chi Minh City
9	JAPAN Osaka
10	BANGLADESH Dhaka
11	CHINA Shanghai
12	US Illinois
13	US New York
14	UK London
15	TAIWAN Taipei

積極的なM&Aで成長を加速

■上場以降のM&A推移

